

# ◆「ライフコースの社会学」のはじめに

## ●1. 担当科目の構成と進行計画

- A年度 = 「ライフスタイルの社会学」 + 「ライフコースの社会学」
- B年度 = 「ライフスタイルの社会学」 + 「計画と政策の社会学」

- ①「ライフスタイルの社会学」…現代社会の生活変動を中心に
- ②「ライフコースの社会学」…人間の一生や生涯・世代という観点を中心に
- ③「計画と政策の社会学」…生活問題への社会的対応や福祉国家論を中心に

- a. 構造への着目 = 講義「ライフスタイルの社会学」で
  - ①生活構造…社会構造と意識構造の間で個人や家族が日々経験する骨組み
  - ②ライフスタイル…選択可能な生活要素の選択や組合せによる価値観・人生観の表現
  - ③ライフチャンス…生活の多様性を広げる権利や可能性の社会的配置や格差
- b. 時間への着目 = 講義「ライフコースの社会学」で
  - ④ライフサイクル…個人や家族が類似段階（ライフステージ）を規則的に経験
  - ⑤ライフコース…個人が歴史と世代の影響を受けながら1回限りの人生を経験
- c. 質への着目 = 講義「計画と政策の社会学」で
  - ⑥生活の質（QOL）…経済指標で測定できない生活のゆとりや豊かさ・価値への着目
  - ⑦生活者…経済至上主義でない、生産者・消費者両面に配慮した生き方

## ●2. 生涯・人生・世代への社会学の視点…生活構造論から各種のライフ論への研究展開

①生涯の位置づけ  
…人間の「生」を構成する1要素 = 「身体」「日常行動」「時間」

### ②世代と人生への社会学的視点の成立

- a. 社会変動の推進役としての若者 → 「世代」の社会学的研究
- 1960年代 世界的な若者たちの反抗・抵抗 = 「反文化(counter culture)」
  - 1)自由という価値の浮上…伝統的価値・おとな的価値との衝突
  - 2)WWⅡ後の「ベビーブーム世代」
  - 3)高度消費社会の担い手…ファッション/メディア/ライフスタイル  
⇨ 象徴としての「若者」
- 日本では：「ベビーブーム世代」(1947-1949年生) … 1960'S後半・大学紛争

b. 高齢化社会の本格的到来 → 「人生」の社会学的研究

長寿化にともない多様性に満ちた人生航路

- 1)長命－短命…先進国の百歳老人(centenarian) から途上国の乳幼児飢餓
- 2)家族構成の変化…3世代から夫婦中心へ／離婚・再婚／シングル化
- 3)20世紀内の各時代の影響の大きさ…2度の戦争／高度成長／グローバル化

● 3. 「ライフコースの社会学」進行計画 (秋学期)

I. ライフコース論への基礎的視点
1. 人生や世代、生への社会学の視点
2. 構造的背景たる少子高齢社会
II. ライフコース論をめぐる諸研究
3. ライフサイクル論
4. ライフコース論とライフヒストリー論
5. ライフコース研究の諸概念と分析
6. 生への社会学的視点
III. ライフコースと世代
7. 青年期の意識と行動1
8. 青年期の意識と行動2
9. 中高年期の意識と行動1
10. 中高年期の意識と行動2
IV. ライフコース論をめぐる社会思想
11. 生と死の社会学1
12. 生と死の社会学2
13. 物語としての人生
14. ライフコースの社会学・まとめ

## 講義概要情報 / Course description

講義概要 / Course description	高齢化・長寿化が進み、いまや「人生90年時代」と言われる現代社会において、人生や生涯、世代への関心が高まっています。時代や社会、人間関係の影響を受けながら過ごしていく私たちの一生をとらえるため、社会学では「ライフコース」という概念が開発されてきました。本講義では、ライフコース論の諸概念や登場の背景、具体的な分析ならびに世代ごとの動きなどにふれつつ、歴史と社会構造に対する皆さんの社会的感覚を養ってみたいと思います。この講義が、皆さんが今後一生を過ごしていく際のシミュレーションの役割を担えるならば幸いです。
到達目標(授業の目標) / Course objectives	(1)戦後の日本社会を中心に、人々の一生の変化と社会の変化を関連づけて考える力を身につける。 (2)ライフコース研究、世代論、物語論、生と死などに関連する社会学の視点や理論について理解を深める。 (3)人口問題や家族問題、世代間関係の問題など、人々の一生に関連する社会問題の諸相について認識を深める。
授業時間外(予習・復習等)の学習 / Expected work outside of class	全体的な予習としては、藤村編の『いのちとライフコースの社会学』を通読し、このテーマの全体像の印象をもっておくと授業の理解が深まる。 復習に中心をおき、授業中に配布するプリントについて内容を確認し、そこに登場する概念や用語を社会学辞典・事典などにおいて調べて、日常生活の理解に応用できるようにする。また、授業中に紹介した文献などについて、その後の予習の意味でできるだけ多く読了し、社会学の感覚や考え方にふれる機会を増やす。

### ★テキスト [授業内容の主な出所]

- a. 藤村正之『〈生〉の社会学』東京大学出版会
- b. 藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂

### ★参考書

- クローセン『ライフコースの社会学』早稲田大学出版部
- 栗原 彬 『人生のドラマツルギー』岩波書店
- 大久保孝治『変容する人生—ライフコースにおける出会いと別れ』コロナ社
- 上野千鶴子『おひとりさまの老後』法研
- 天野正子 『おいへのまなざし』平凡社ライブラリー
- 天野正子 『老いがいの時代』岩波新書
- 藤村正之 『考えるヒント』弘文堂